# 進む風化 進まぬ復興

学生記者　白倉隆之介（法学部4年）

## メディアの被災地報道に思うこと

「進む風化、進まぬ復興」。今の東北を端的に表す言葉の一つである。

JR仙台駅周辺や仙台空港といった東北の玄関口は、完全に震災前の姿を取り戻し、もはや震災の爪痕は見当たらない。だが、少し車を走らせれば、まだまだ時計の針があの日で止まったままの地域がたくさんある。皆が皆、再起に向けて立ち上がっている人ばかりではない。

関心が少しずつ薄れていく中、たまの報道があっても被災地の現状が必ずしも正確に伝わっていないことに歯がゆさを感じている。

## 進む過疎、高齢化、統廃合

被災地域における「過疎化」、「高齢化」の進行が叫ばれているが、この問題は今に起こったことではない。宮城県では、もともと震災前から仙台圏を除く多くの地域で過疎化や高齢化が進んでいた。その中で東日本大震災が発生。まさに追い討ちをかけたといって良いだろう。（※1）

すると、私たちの身近なところで一気に湧きあがってくる問題がある。小中学校の統廃合問題だ。

## 閉校式と母の留守電

2013年3月23日。気仙沼市立浦島小学校が63年の歴史に幕を閉じた。この小学校は高台に位置しているため被災こそ免れたが、児童数の大幅な減少もあり、ついに隣の学区の鹿折（ししおり）小学校に統合されることになった。閉校式には、在校生、多くの卒業生、そして地域の人が参加し、小学校との別れを惜しんだ。その日の地元紙・三陸新報には『さよなら 浦島小』という大きな特集が組まれた。浦島小学校がいかに市民から愛されていたかがよく分かる。

気仙沼で30年近く小学校教諭を務めている私の母も以前勤務していたことがあり、参列してきたそうだ。その日、留守番電話には「皆さんと“最後の”校歌を歌ってきました。また一つ、思い出が過去のものになっていくような感じがします」とのメッセージが入っていた。いつもよりトーンを抑えたその声から、母の寂しさが伝わってきた。

## 地域はどうなるのだろう

過疎化、止めることのできない少子高齢化の波を考えると、これからも、一つ、また一つと小中学校が統廃合になっていくだろう。今年2月に気仙沼市教育委員会が公表した「義務教育環境整備計画案」によると、このままのペースで少子化が進んだ場合、少し街中にある私の母校の中学校も平成33年度までには統廃合の対象になるという。

学校がなくなることは、地域にとってはそう簡単に受け入れられることではないだろう。しかし、先述の浦島小で統合前に「地域懇談会」が開かれた際には、反対意見は出なかったことが報道されている。PTAからは「統合はやむを得ない。スクールバスの運行、安全対策など子どもたちへの配慮をお願いしたい」という声があがったという。このとき地域住民の皆さんはすでに覚悟を決めていたのだろう。苦渋の決断を思うと胸が締め付けられる。

学校がなくなっても地域は続いていく。その後の地域をどのように盛り立てていくべきか。地域において、小中学校はコミュニティの「原点」であり、校庭に響きわたる子どもたちの声は、地域の「活力」そのものである。

学校が閉校になったとしても、何かしらの形で地域の拠点は確保していく必要があると思う。空き校舎の活用を図ったり、代替施設を建設するなど、方法はさまざまある。行政と地域住民、さらに外部のコーディネーターを交えて協議を重ね、その地域にとってよりよいあり方を見いだしていってほしい。

「気仙沼大川も、全国の皆さんのご支援でここまできれいになりました」

## 今の被災地中学生は“悟り世代”?

「今の気仙沼の中学生は“悟り世代”」。年の離れた中学生の弟と妹をもつ、私のある同級生の母親の言葉だ。今の気仙沼の中学生たちの中には、「とりあえず入れそうな高校に入って、卒業ができればそれでいいや」という子が多いらしい。ここでの“悟り”というのは、自分の限界を“悟る”ことをいう。

全ての子にあてはまるわけではないし、私が訪問させて頂いている面瀬中仮設にも、こつこつ努力を重ねて志望校に合格した中学生がいる。だが、そうはいっても、思春期に入るか入らないかの人生で一番心が揺れ動く時期に、あれだけの自然の猛威を見せつけられ、昨日までそこにあった街並みが、いとも簡単に流されてしまう現実を目の当たりにしてしまったら、自らの限界を“悟る”のも無理はない。

この震災の記憶が彼らの頭から消えることはないだろう。心の揺れ動く思春期に経験したこの記憶を、生涯背負って生きていく。彼らの青春・中学時代は、街が被災し、教室から校庭に建つ仮設住宅を眺め、部活動も満足にできない中で卒業していく。私は、彼らこそ“強い”世代であると思う。自分の限界を“悟る”のではなく、自分の持つまだ見ぬ力を信じてほしい。これだけの不自由に健気に耐えている世代は彼らしかいないのだから。

私の同級生数人が、故郷・気仙沼で教育実習に臨んだ。友人たちとは、このことをしっかり伝えていこうと約束をした。

（※1）宮城県の調査によると、宮城県内の高齢化率は平成24年3月現在、宮城県七ヶ宿町で43.2%、同女川町で32.1%、同気仙沼市で30.5%となっている。全国平均は23.0%。


HAKUMON Chuo

学内配布場所一覧

中大生が作る中大生のための情報誌『HAKUMON Chuo』は、各キャンパスの以下の場所で配布しています。
ぜひ手に取って読んでみてください。

●多摩キャンパス
各学部・大学院事務室
学生部
図書館
グリーンテラス
キャリアセンター
学友会
国際センター
生協2階
入学センター
炎の塔

●後楽園キャンパス
理工学部事務室
生協
ビジネススクール事務室

●市ヶ谷キャンパス
ロースクール事務室

●市ヶ谷田町キャンパス
総合インフォメーションカウンター
アカウンティングスクール事務室

●駿河台記念館
駿河台記念館事務室